

## 「一般小学校を目指したい!」ママ対談★実現

「障がいがあっても、この地域で学んでほしい」そんな想いの中、でもどうすれば良いの?とご不安を抱える保護者の方も多いと思います。チェリーでは年中さんの時期から、保健師さんのご協力のもと就学の準備を行っています。今回は、年中のうちに一般小学校と特別支援学校を見学した青柳さん親子と、車いすで若菜小学校に通う谷下尊さん(11歳)親子で対談を行いました!

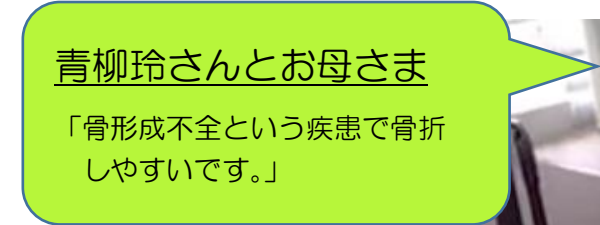


谷下尊さんとお母さま

「二分脊椎という疾患で、装具や車いすを使っています。導尿という医療的ケアが必要です。」

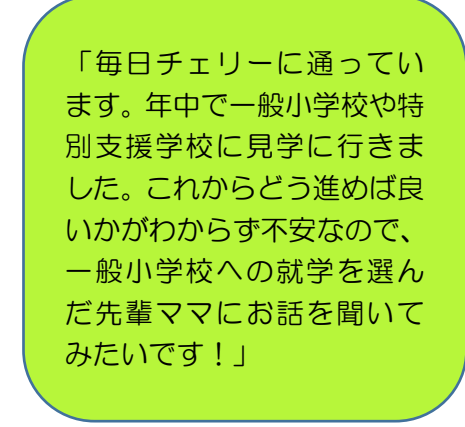


毎日、車いすを漕いで学校に通っています。スポーツにもチャレンジしています! 夢はケーキ屋さんでパティシエとして働くことです!



青柳玲さんとお母さま

「骨形成不全という疾患で骨折しやすいです。」



「毎日チェリーに通っています。年中で一般小学校や特別支援学校に見学に行きました。これからどう進めば良いかわからず不安なので、一般小学校への就学を選んだ先輩ママにお話を聞いてみたいです!」

### ■青柳「一般小学校に通う事を決めた理由は?同じような子どもさんが通っていたのですか?」

谷下「導尿が必要だから特別支援学校を勧められましたけど、働きながら遠方の学校に通わせることは難しかったです。確かに特別支援学校は「安心・安全」な場所だと思いますが、この子が成長し社会に出た時にしっかり自分の気持ちや身体のことを周りのいろんな人に説明し、協力を依頼する力を身に付けて欲しいという気持ちが強かったです。」



### ■青柳「具体的に、どんな準備をしたのですか?」

谷下「通いたい学校に**肢体不自由児クラス**を設置して頂くようお願いし、**導尿のケア**を誰が行うかということを中心に、学校の先生方や保健師、通所事業所の看護師、相談支援専門員らと共に早期から話し合いを行いました。**学校に看護師配置はできない**との事で困りましたが当面は家族が学校にケアに通いながら、尊ちゃんが自己導尿できるよう通所先看護師や訪問看護師と練習をする事で現在はできるようになり、学校の看護師不在の課題を乗り越えました。」

### ■青柳「通ってみて感じたことは?困ったことは無かったですか?」

谷下「運動会では車椅子だし、皆に迷惑になるのでは...と思い、先生にリレーは欠場しますと申し出ようか悩んでいたところ、車いすの尊ちゃんとのバトンの渡し方を先生だけでなくクラスの皆と一緒に考えてくれて、見事リレーは実現しました。親はどうしても心配が先立つけれど、こうやって皆で過ごすことでいろんな工夫が生まれ、**方法は違っても同じ経験を共にできる**ことを先生も子供たちも、親の私も知ることができました。先生方も、初めは恐る恐る「そんなこと危なくないですか?」と言われていましたが、今では「こんな風にやってみたいんです!」と熱のこもった支援を提案してくれています。」

谷下「入学後は**保育所等訪問支援**を利用して、学校での過ごし方について先生方と訪問支援員と一緒に考えてくれています。今は「卒業式は杖と装具で歩いて入場する!」ことを目標に掲げ、訪問支援員や先生方と練習しています。」

### ■対談を終えた青柳さんの感想

「やっぱり骨折しやすい子なのでそれが一番心配です。でも色々な方法があり、色々な人がサポートしてくれるとわかったので、将来も見据えてこれからじっくり考え、準備していきたいです。」

### ■谷下さんから地域の方々へメッセージ

「私は介護の仕事をしているので普段から体の不自由な方と関わる機会が多いけれど、そういう機会がない方にはわからないことだらけだと思います。まずは**関わる機会を持ってほしい**です。そうすれば互いを理解しあえるし助け合える存在だとわかります。そして、今元気に生活している方も、病気や事故で誰かの助けを必要とすることが起こるかもしれません。誰かへの支援を「してあげている」と思わず、我がこととして捉えて頂けると嬉しいです。」



【編集後記】幼い頃から障がいのある人と共に生きることを経験した子どもたちはきっと「できない」と思いがちなことを「どうやったらできるかな?」という発想を自然に持てる大人に成長する事でしょう。こんな機会を皆さんが体験することで「そうか、できるんだ!」と気づき、社会の中に「合理的配慮」が自然に生まれていくと良いですね!ベストグループでは今後も共に考えていきますのでいつでもご相談ください!